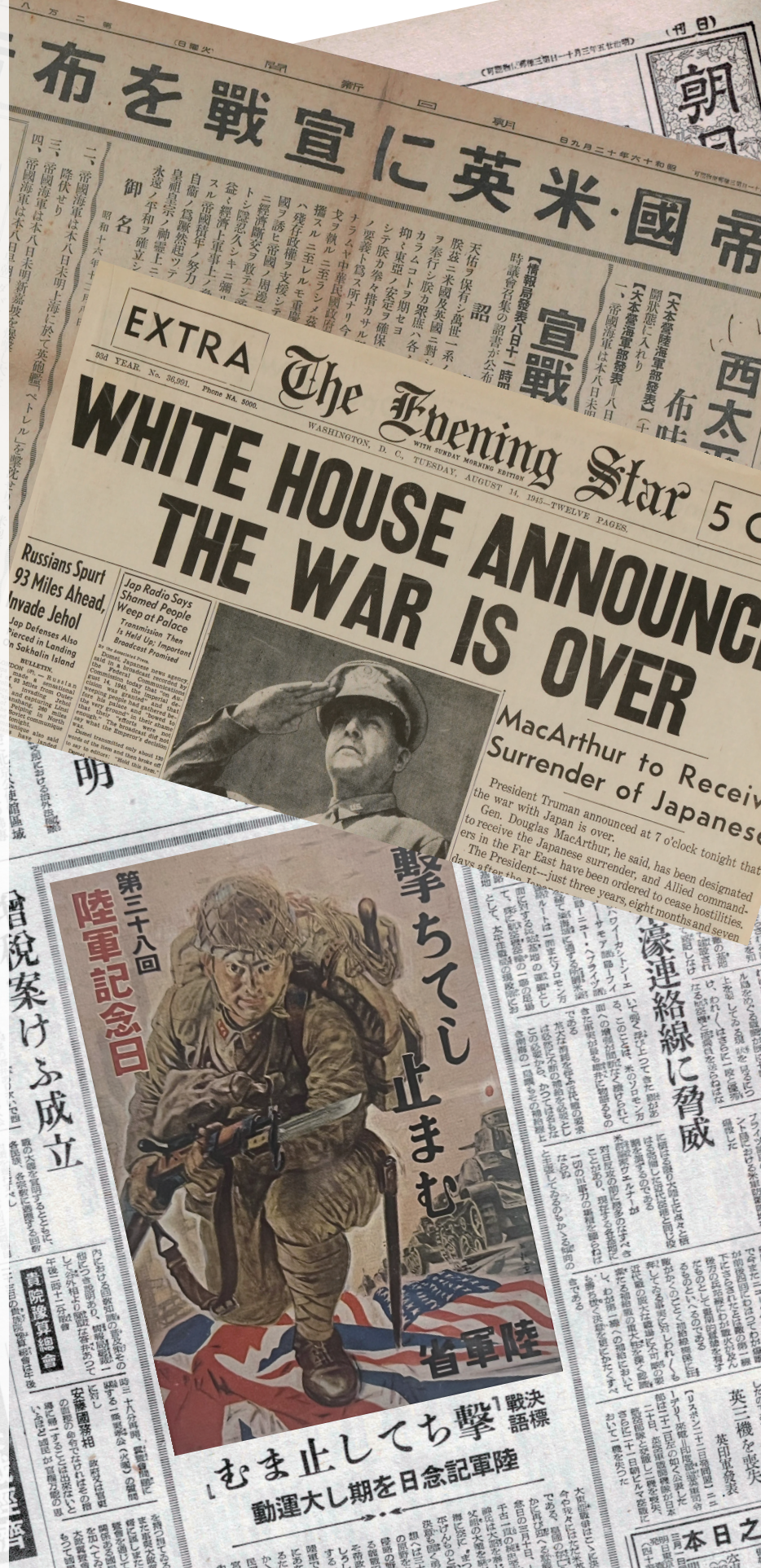


立命館大学国際平和ミュージアム ギャラリー企画展

プロパガンダポスターが描かれるまで

画家 宮本三郎の戦前・戦中



入館料：大人 400 (350) 円 / 中学生・高校生 300 (250) 円 / 小学生 200 (150) 円 ※ () 内は 20 名以上の団体料金

※障害者手帳・被爆者健康手帳・戦傷病者手帳をお持ちの方は、ご提示いただきますと入館料が免除になります。付添の方も 1 名まで無料です。

※IAF 会員証提示の場合、1 枚で 5 名まで入館料が 50 円引きになります。※立命館で学ぶ人・働く人は無料です。

『朝日新聞』昭和 16 年 12 月 9 日 (夕刊)』
 『朝日新聞』昭和 18 年 2 月 24 日 (朝刊)』
 『The Evening Star 1945 年 8 月 14 日』
 ※第 38 回陸軍記念日「撃ちてし止まむ」
 陸軍省ポスター (カラー合成)

会期：2026年8月7日(金)～8月29日(土)

開館時間 9:30～16:30 (入館は 16:00 まで)

会場：立命館大学国際平和ミュージアム 1階企画展示室
 Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University
 〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 TEL075-465-8151

休館日：日曜日、祝日の翌日 (8/12)

主催 橋本 正博 TEL090-8090-5266

後援 立命館大学国際平和ミュージアム

ギャラリー
トリーク

8/8 (土)、8/15 (土)、8/29 (土)
いずれも 11:00～14:00～

プロパガンダポスターが描かれるまで

画家 宮本三郎の戦前・戦中

幼少期には陸軍大臣に憧れ、十七で画家を夢見て上京、戦時中に戦争記録画やプロパガンダポスターの原画を描いた宮本三郎。本企画展では戦前・戦中の作品や戦争（戦争画）についての言葉など、一人の画家の半生をおして当時の社会と戦争・芸術との関わりについて紹介します。

戦時中に描かれた作品の多くが所在不明である中、戦意高揚を目的とした陸軍省ポスター原画は戦後八十年を経た今日まで奇跡的に保存されました。この作品の現所蔵者として、本展の開催が現在の世界情勢や各地の紛争などについて考える機会を提供できれば幸いです。（主催者）



1942（昭和17）年12月、第1回大東亜戦争美術展覧会での宮本三郎。作品は陸軍省の委嘱を受けて宮本が制作した作戦記録画「山下、パーシバル両司令官会見図」（1942）。本作は同年2月15日にシンガポール・フォード自動車工場で行われた山下奉文中将と英国パーシバル中将との停戦会談の場面を描いたもので、第2回帝国芸術院賞を受賞している。作品は現在、東京国立近代美術館がアメリカ合衆国無期限貸与作品 全153点の内1点として保管している。（画像提供：小松市立宮本三郎美術館）

宮本三郎が語る「戦争」

■ぼくは神経質な子供だったけれど、日露戦争後の軍人万能の時代だから、ぼくも陸軍大将にあがれていた。

『毎日新聞』一九五七年（昭和三二）二月三日

■私の上京はそれから二年の後であった。私の周囲がそれ程私の前途に期待しなくなっていたし、画家という特殊な職業が彼等に多くの希望を持たせなかったから、私は極めて身軽にこの冒険的な仕事に安々と身をまかせることが出来た。（略）

戦争画に就いて

時局柄戦争画を描かなければならないことについての感想をきかれることがある。そのたびに私は戦争画が面白いからと答へることにしているが、事実迎合するとか止むを得ずにとかといふ気持ちはない。面白いから描くことが、お役に立つといふことになれば有難いと思ふばかりである。

『宮本三郎南方従軍画集』一九四三年（昭和一八）九月

■御はがきありがとうございます。（略）

私は今香港の戦争の絵と海軍の佐久間艦長の図を描きかけています。小父さんは絵で自分一人でもアメリカに勝つてやらうと思つています。アメリカは絵の方は下手糞です。君達は勉強でアメリカの小供に負けないようにして下さい。日本人の一人々々が敵に勝たねばなりません。（宛先詳細不詳 宮本書簡一九四五年（昭和二〇）春）



宮本三郎
第38回陸軍記念日
「撃ちてしまむ」
陸軍省ポスター原画
油彩、960×635mm
1943年（昭和18）



1943（昭和18）年3月10日、第38回陸軍記念日、東京・有楽町の日劇ビル外壁には「撃ちてしまむ」の決戦標語とともに百畳敷大型写真パネルが掲げられた。これに合わせて宮本三郎が原画を描いた陸軍省ポスターも5万枚製作され、国内はもとより中国や南方各地に配布された。以後同年4月の山本五十六連合艦隊司令長官の戦死、翌年のサイパン島陥落など戦況は悪化し、時代は敗戦へと向かうこととなる。（画像：撮影者不詳、主催者蔵）

宮本三郎関係略年譜

- 1905年（明治38）
宮本三郎 生誕（石川県小松市）
- 1921年（大正10）
画家を志して上京
- 1935年（昭和10）
世田谷にアトリエ新築
この頃、多くの挿絵を手掛ける
- 1938-39（昭和13-14）
初の洋行、世界大戦勃発により帰国
- 1940年（昭和15）
9月、中国北部にて約3カ月間従軍
- 1942年（昭和17）
4～7月、南方戦線に従軍（2度目）
「山下、パーシバル
両司令官会見図」制作
第三回航空日ポスター
「空だ翼だ若人だ」の原画制作
※この年の国民決意の標語
「欲しがりません勝つまでは」
- 1943年（昭和18）
第38回陸軍記念日「撃ちてしまむ」
陸軍省ポスターの原画制作
2月、5万枚のポスター配布・掲示
7月、フィリピン方面に従軍（3度目）
9月、初の画集
「宮本三郎南方従軍画集」刊行
- 1944年（昭和19）
体調不良を理由に4度目の従軍を
断り故郷（石川）に疎開
- 1945年（昭和20）
故郷で終戦を迎える
- 1947年（昭和22）
創立メンバーの一人として
第二紀会（現、二紀会）創立
- 1952-53（昭和27-28）
二度目の洋行
- 1970年（昭和45）
戦争記録画がアメリカより返還
- 1974年（昭和49）
宮本三郎 没（69歳）